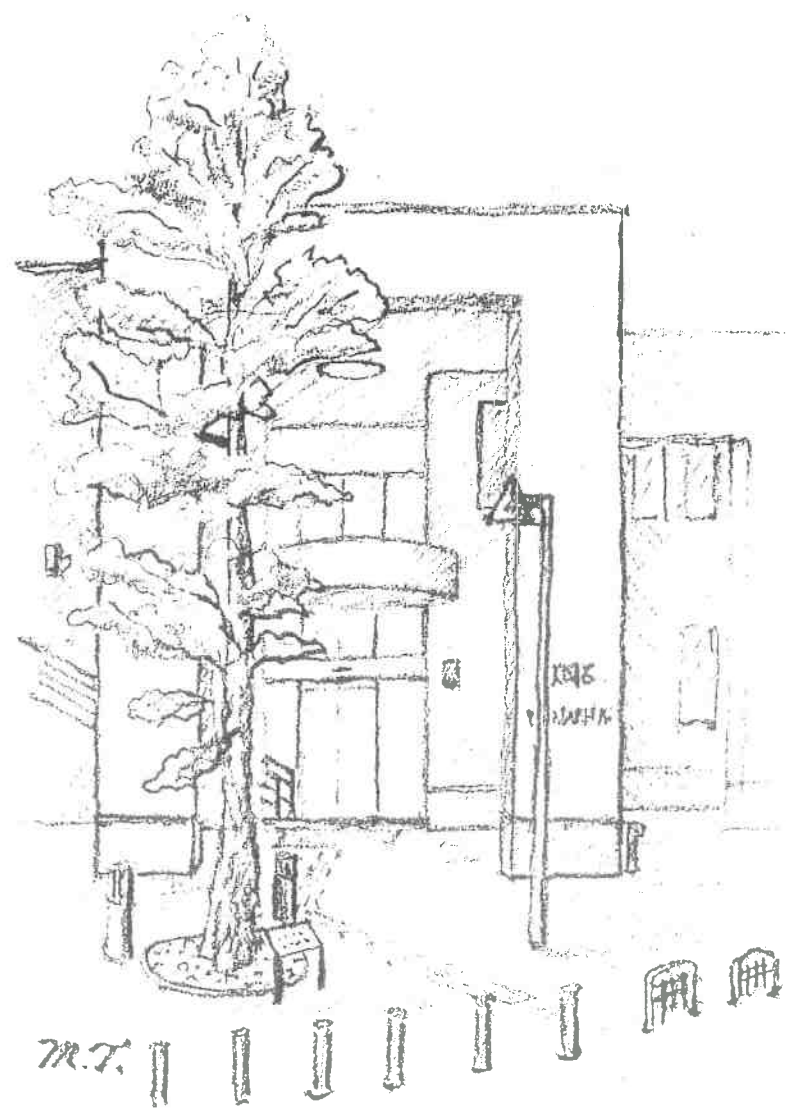


ふれあい 雪谷

平成九年

さくら号



【洗足池図書館】 樽村昌安さんの作品

区立施設紹介

洗足池図書館

洗足池図書館は、昭和35年3月に大田区2番目の区立図書館として産声を上げました。しかし、35年を経過し、建物の老朽化が著しく、建替のため、平成6年3月に閉館しました。それから2年後の平成8年7月に、装いも新たにオープンしました。

付近は、閑静な住宅街で、隣にはお寺、向いには大森第六中学校があります。恵まれた環境にある洗足池の散策に訪れた方でも気軽に立ち寄ることができます。

当館は、洗足池を特等席で眺めながら、ゆったりと読書ができる図書館です。

建物に入ると、カウンター、近未来的でメタリックな素材を組み合わせた階段があり、吹き抜けの構造になっています。2階回廊に設けたギャラリースペースは、文化・芸術活動発表の場として利用できます。

また、生涯学習の一環の場として利用できる多目的室もあります。1階のカフェテリアとテラス席は、注目を集めることと思います。緑と日差しがまぶしいガラス張りのカフェテラスをとるか、洗足池の眺めを一人占めできるテラス席をとるかはご自由に。コーヒ一片手にくつろぐこともできますし、もちろん、飲食等オーダーしなくても席はご利用になれます。全館禁煙ですので、タバコの好きな方はテラス席へどうぞ。

今後、当館では、区内在住の方の自費出版寄贈資料の収集、洗足池ゆかりの勝海舟に関する資料の収集、映画・演劇・音楽分野の分担収集等に一層の力を入れて行きます。

皆様のご来館、職員一同心よりお待ちしております。

☎(3726)0401

編集後記

花便りも伝わる今日このごろ、職場にも学校にもそれぞれフレッシュマンが加わって、新たなスタートとなることでしょう。

洗足池図書館が新装開館して8か月余り。環境にも恵まれ、利用者が増えることが予想されます。編集委員の國府方進さん（池の台）が2月に、大恵芳子さんと交替されました。國府方さんの多年の労に深謝いたします。

（小池 樽村昌安）

新編集委員の紹介
（池の台自治会）
大恵 芳子 ☎ 三七二九一三九五

（発行）わがまち大田雪谷地区推進委員会
（編集）ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 大田区雪谷特別出張所内
大田区東雪谷四一三二二三
電話 三七二九一五一七

（発行日）平成九年四月一日
通巻 第二十六号

……まちかど……

雪谷少年剣道クラブ



このクラブは、雪谷中学校と池雪小学校で、剣道教士七段の私と、多くの皆さんの協力で、昭和59年から今日まで子供に剣道の指導を続けております。剣道は礼儀と信義を重んずる日本古来の伝統武道です。剣道の稽古は辛く苦しい事ばかりで楽しい事はほとんどありません。

時々楽しい事が有るから続けられるのです。それは、稽古終了後に面を取った時の充実感、試合や審査会で結果が出た時のその嬉しさ、笑顔なのです。

弱い子供は何もしなければ弱

いままでです。強い子供はもっと強い子がいる事を知り、更に稽古に励むでしょう。

一緒に合宿や稽古をする事で辛さを分かちあい友情が芽生えてくる。そんな中でお互いに思いやる気持ちが自然と身についてゆく実例を、多く見てきました。剣道は中学・高校と続けければ、人間としても大きく成長します。

今年、大田区剣道大会団体戦で連続優勝し、子供たちの意気も大いに上がりました。

（上池上 松本 茂）

散歩道

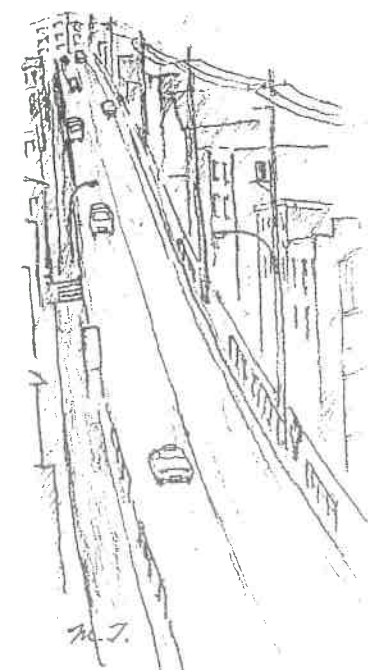
貝塚坂

上池台四丁目と五丁目の境を、環七「夫婦坂」方面へ上る通称「学研通り」の坂道である。

この坂周辺は、貝塚を伴う集落遺跡のあった所で、石器時代の器物や矢の鏃（やじり）などがよく掘り出されたといわれる。当初は海岸がかなり近かったものと想像される。

昔、この辺りは雑木林や竹藪と畑で寂しいところであった。坂下付近では、湧水を利用した野菜の洗い場があり、また、空地では毎年一月十四日に「せいのかみ」（とんど焼）が行われていた。

（小池 樽村昌安）



公証人って、なあ～に？

ウーン、どう言ったらわかってもらえるかなあ。そうだ、こんな話から始めてみよう。

あなたが友達からお金を貸してくれと頼まれたとします。お金は持っている。貸してやってもいい。しかし、もし返してもらえなかったら悲慘なことになってしまう。どうしよう。

そんなとき公正証書にしておけば安心なんです。なぜか。公正証書には強力な二つの力、すなわち証明力と執行力が与えられているからです。証明力というのは、その証書の内容は真実で、これに反する主張、例えば「そんな金は借りた覚えがない」などとシラを切っても通りませんよという力、執行力というのは、その証書を裁判所に持っていけば、裁判抜きで執行官が相手の動産や給料などを差し押さえ、お金を取り立ててくれるという力です。だから大事な契約は公正証書にしておくで安心なんです。

ところで、最近では離婚に際しての慰謝料や養育費などの取決めも公正証書にしておくという人が多くなっています。離婚が増えているという時代の反映なんでしょうかねえ。

公証人をしていて、いつも心が痛むのは遺産をめぐる骨肉の争いがあまりにも多すぎるということです。これは、もう地獄です。遺言というと、みなさんは死に際の言葉というような暗いイメージをうけるのではありませんか。誤解です。遺言は、頭がクリアなうちにしかできないんですよ。まだ元気なうちに死後の財産の交通整理をしておいてみにくい相続争いを未然に防止する、そのため法律的に一番確かな公正証書でキチンと遺言をしておく、それが残される者への本当の愛ではないでしょうか。

紛争というのは、いったん起こってしまうと、その解決までに気の遠くなるような時間と費用と労力がかかるものです。紛争の解決よりも紛争が起こらないように予防する、それが賢明な方法なのです。紛争予防のため一番手っ取り早い方法はなにか。公正証書にしておくことです。そういう公正証書など作らせるために、30年以上も判・検事や法務局長などを務めた法律のベテランの中から法務大臣が任命した特殊な公務員、それが公証人だと、そう思ってください。都内には45箇所公証役場があります。相談はどこでもすべて無料、お気軽にドアを叩いてください。あ、電話でもいいんですヨ。

(蒲田公証役場公証人 清水勇男)

☎ 3 7 3 8 - 3 3 2 9

東調布児童交通公園改良工事完成する！

大田区にある大小4か所の児童交通公園の一つである東調布児童交通公園は、施設全体が老朽化したため1年をかけて前面改良(公衆便所を含む)を行い、平成8年9月末に完成しました。

児童交通公園は、自転車や豆自転車、三輪車、ゴーカートへの貸出し、消防自動車、巻き貝の遊具等、従来の形態に加え、緑のトンネル、くねくね道、コンビネーション遊具等の整備を行いました。さらに、T字路や合流地点を設け、楽しく遊ぶ中で交通ルールを体験し学び、譲り合い等の社会性を身につけることができるようにしました。通路の部分は、開放的なプロムナード(遊歩道)とし、幼い子供からお年寄りまで様々な年齢層の人々が遊んだり、休息したり、体操したり多目的に利用できる広場としました。

また、この地域の特徴である「谷戸の湧水」を利用し、湧き水を再現したり、壁泉から流れ出る自然風のせせらぎによって自然ののどかさを感じることでできる親水空間を創出しました。

今回整備した施設とプール、野球場が一体となって機能するようにしましたので、ご利用ください。

(土木部公園課)

事業系ごみの全面有料化の実施状況

事業系ごみの全面有料化を実施して、4か月が経過しました。

事業者の方のご協力によりスムーズに実施に入ることができました。感謝申し上げます。

有料シールの貼付率については、実施当初は概ね76%でした。徐々に貼付率は上がっていますが、一部の事業者からは理解を得られず、数度の説明にも耳を貸さずといった方もおり、現在は90%台で推移しています。

有料化の目的であるごみの減量は、実施前と比較して日量約10t(可燃約7t、不燃約3t)となりました。

調布地区のような住宅が主体の地区において、この減量結果は大きなものがあります。

これからも、減量化と100%のシール貼付率を達成するため、職員が一丸となって取り組んで行きます。

また、平成9年度には「容器リサイクル法」施行されます。事業系ごみに限らず、家庭ごみについても減量へのご協力を切にお願いします。

(東京都調布清掃事務所 穂山)

自治会リレー随筆

地域が支えた雪中50年

今年度、私がPTA会長をしている区立雪谷中学校は、5月に満50周年を迎えます。昭和22年に開校、同25年春に233名の卒業生を送り出して以来、昨年までに11,474名の同窓生が生まれています。今年の卒業生は約140名と、団塊世代のピーク時から1/3の生徒数になってしまい、寂しい点もあります。学区域の希望ヶ丘・南雪谷・東中・東雪・上池上自治会の中で主導的に活動する人をはじめ、各方面で活躍する人を多数輩出している事は大変うれしい事です。同時にその卒業生や保護者の方々を中心にした地域の力があってこそ、雪中が50年の歴史を刻めた事に、私たちは、あらためて注目しなければならないと思います。

直線で100mコースが取れる区内有数の敷地は、地権者他、多くの方の好意で得られたものです。

教室不足の際の図書館や体育館建設など、物資が満足でない時代での援助、あるいは校舎改築時の近隣の理解などなど、PTAや地域の果たした役割は、決しておろそかに出来ないものばかりです。

ごみを掃けば階下の教室に落ちた木造校舎は、今では鉄筋になりました。頻繁にはん濫した呑川や、どこを向いても畑、という学校周辺の景観は様相を一変しています。そして周囲の建物が増えていく中で、徐々に校舎の全容が見えなくなっていきます。保護者や地域の方々の視野にある雪中や生徒の姿は、小さくなってきたように思えてなりません。住民の2%でしかない生徒数でも、21世紀の社会を担ってくれる重要な人材です。かつて貧しかった時代の中学生を支援した地域の熱気が、これからの時代に即した形で再び盛り上がってくれば、地域に根をおろした多くの同窓生をこれからも生み出し続けてくれる事と信じます。

(希望ヶ丘 児玉幸弘)

